

第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の開催に向けた検討状況及び今後の取組について

<大会の概要>

	アジア競技大会	アジアパラ競技大会
主催者	アジア・オリンピック評議会 (OCA)	アジアパラリンピック委員会 (APC)
開催期間	2026年9月19日(土) ～10月4日(日)	2026年10月の7日間(想定)
参加国・地域	OCA加盟の45の国と地域	APC加盟の45の国と地域
選手団 (選手・チーム役員)	最大15,000人	4,000人程度(想定)
実施競技	41競技	18競技(想定)

1 組織委員会の取組

(1) アジア競技大会とアジアパラ競技大会との一体的な取組の実施

- ・アジア競技大会の運営に関する諸計画の作成(競技、輸送・宿泊等)等において、アジアパラ競技大会の運営対応も反映するなど、一体的な取組を実施。

(2) 競技及び競技会場の検討 (別添1参照)

- ・アジア5地域(中央、東、南、東南及び西アジア)での普及を考慮して決定される5競技、組織委員会が提案する2競技、及びOCAが提案する2競技が決定。(2023年7月8日 OCA総会で決定)
- ・競技団体や施設所有者と調整の上、水泳(競泳/飛込)及び馬術については、仮決定していた競技会場を東京都内の会場へ変更。(2023年6月15日 組織委員会理事会で仮決定)
- ・未決定の競技会場については、競技団体や施設所有者等との調整を継続実施。
- ・モデル会場において諸室配置や動線計画、人員配置など大会当日における競技会場の会場運営計画の策定に向けた検討を実施。

アジア5地域の競技 (5競技)	組織委員会提案競技 (2競技)	OCA提案競技 (2競技)
クラッシュ(中央アジア) 武術太極拳(東アジア) カバディ(南アジア) セパタクロ(東南アジア) 柔術(西アジア)	野球・ソフトボール 空手	スカッシュ Eスポーツ

### (3) 選手村の整備

- ・選手村の整備を行わず既存の宿泊施設等を活用する方向でOCAと協議・調整。(2023年3月27日 組織委員会理事会で報告)
- ・既存の宿泊施設等を選手村として運営する際の具体的な方法を検討。

### (4) 輸送・宿泊等の運営計画の検討

- ・大会関係者輸送に関するバス運行計画、車両・運転手確保及び運行管理体制、仮配宿計画を踏まえた輸送拠点間の輸送ルートについて検討。また、車両を管理するための拠点計画を策定予定。
- ・ホテル運営の具体的な方法を検討するとともに、昨年度に作成した仮配宿計画を参考に配宿計画を作成し、各宿泊施設との交渉及び契約に着手予定。
- ・競技会場の警備計画及び警備ガイドラインVer. 1に引き続き警備ガイドラインVer. 2を作成。
- ・報道関係者及び放送事業者の活動拠点となるメインメディアセンターの設置に向け、建築、電力、空調などの仕様を検討。
- ・愛知・名古屋大会における大会ネットワークの全体の基本方針を策定するとともに、情報システムの開発及び運用方針である「情報システムに関する提案」についてOCAと調整。

### (5) 広報・PR及び他団体との連携

- ・杭州大会などの時機に合わせたSNS・ウェブサイト等による広報・PRを継続実施。
- ・大会の盛り上げや学生の大会運営等への参加を促進するため、愛知県内の全ての大学が加盟する愛知学長懇話会と2023年6月16日に連携協定を締結。

### (6) ブランド開発・管理

- ・アジア競技大会マスコット作成に向けて、募集や選定方法等の方針を検討。
- ・今後締結予定のアジアパラ競技大会の開催都市契約に基づき、大会スローガン・エンブレム・マスコットの制作を検討。

### (7) マーケティング活動の実施

- ・2024年以降、速やかにスポンサー(パートナー)セールスを開始できるよう、スポンサー(パートナー)獲得等を担うマーケティング代理店の公募を実施。

### (8) 式典計画の検討

- ・開閉会式、聖火リレー、文化プログラムの計画作成に向け、関係機関等へのヒアリング等を踏まえ、運営方針等を定めた基本計画を作成予定。

## 2 開催都市の取組

### (1) 開催機運の醸成

- ・ブース出展や小中学生に対する啓発パンフレットの配布等を実施。
- ・杭州大会閉会式で大会旗を引継ぐフラッグハンドオーバーセレモニーや、大会旗を県内で披露するフラッグツアーを実施予定。
- ・杭州大会に合わせた集中PRや愛知・名古屋大会1000日前イベント等のPRイベントも実施予定。

### (2) アジアパラ競技大会の開催準備

- ・開催都市契約の締結に向け、引き続きAPCと調整・協議。

### (3) 開催都市における大会運営

- ・各競技会場の最寄駅等から競技会場までの観客輸送や警備計画を検討。

### (4) アジア・アジアパラ競技大会に関する懇談会の開催

- ・大会の新たな理念の構築に向けて、4月28日に第2回懇談会を開催。理念にどのようなメッセージ・意味を込めることができるのか、どのような活用・展開ができるのか、について議論いただいた。
- ・第3回懇談会は今年の秋頃に開催し、中間報告をとりまとめる予定。

### (5) 名古屋競馬場跡地の後利用事業の推進

- ・一部施設を選手村として活用した上で、大会後のまちづくりを行う選手村後利用事業については、2022年度末に選手村整備を取り止める方向となったことを踏まえつつ、事業を継続していく方向で契約候補事業者と協議・調整。
- ・なお、県・名古屋市共同で行っている道路等の基盤整備事業は、予定どおり継続実施。 (別添2参照)

## 3 組織委員会・開催都市の取組

### (1) ユニバーサルデザインの推進

- ・開催都市と組織委員会が合同で、学識者、当事者（障害者、高齢者、子育て等）、パラアスリート等を構成員とする検討会を設置。競技会場等におけるアクセシビリティ・ガイドラインを年内に策定・公表予定。

## 4 アジア・アジアパラ競技大会を契機とした取組

### (1) レガシー

#### <愛知県>

- ・ 県内市町村とアジア各国との国際交流推進のためのシンポジウムを開催し、今後の本格的な市町村フレンドシップ事業に向けて、アジア各国と市町村のマッチングを実施予定。
- ・ 障害当事者や有識者等を交えてのバリアフリーセミナーを実施予定。

#### <名古屋市>

- ・ 2019年10月に策定した「2026アジア競技大会NAGOYAビジョン」に掲載した取組を各局において推進。
- ・ 2022年11月に策定した「瑞穂公園陸上競技場地区バリアフリー基本構想」に掲載した取組や市内競技会場及びアクセスルートのバリアフリー調査を実施。
- ・ 大会をSDGsの視点から紹介する動画の制作、アールブリュット作品を活用した大会PR、アーバンスポーツイベントの開催などを実施予定。

### (2) アスリートの発掘・育成・強化

#### ア あいちトップアスリートアカデミー

- ・ 県内5会場で選考会を実施し、1,017名の応募者から、キッズ40名、ジュニア60名、ユース13名、パラアスリート部門8名を選考。
- ・ 7月17日に開講式を開催し、2024年3月16日までアカデミー活動を実施予定。
- ・ アカデミー修了生2名が、国民体育大会（ライフル射撃）、インターハイ（アーチェリー）に出場予定。

#### イ オリンピック・アジア競技大会等選手強化

- ・ オリンピックやアジア競技大会等で活躍する本県ゆかりの選手（パラ選手を含む）を強化するため、競技団体から推薦された選手から183名を強化指定選手に指定し、競技用具費や遠征費等の強化費を補助。

### (3) 瑞穂公園の整備

- ・ PFI方式により陸上競技場の改築を含む瑞穂公園の整備と公園全体の維持管理運営を一体として実施する民間事業者と2021年7月に事業契約を締結。
- ・ 現在、陸上競技場建設工事及び公園整備工事中。

### (4) 愛知県新体育館の整備

- ・ PFI手法の「BTセッション方式」により、設計・建設から維持管理・運営を一体として民間事業者（株式会社愛知国際アリーナ）が実施することとしており、2025年夏の開業に向け、建設工事及び開業準備を進めている。

#### (5) 市町村施設改修への補助

- ・市町村が所有する施設でアジア競技大会開催に必要な照明のLED化、バリアフリー化等の改修をする場合に、補助金を交付。
- ・豊橋市総合体育館（豊橋市）、岡崎中央総合公園総合体育館・多目的広場（岡崎市）、一宮市総合体育館（一宮市）、春日井市総合体育館（春日井市）、ウィングアリーナ刈谷（刈谷市）及びスカイホール豊田（豊田市）の7施設に対し、交付決定済。